

令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」による学校の働き方改革取組状況報告書

下田市立浜崎小学校

1 取組内容〔人的資源の配置・活用〕

(1) スクール・サポート・スタッフ (SSS) の有効活用

- ・学校事務、学級事務、授業準備、特別教室の環境整備や教材整理等、校内の環境整備全般
- ・趣味や特技を生かした授業への参画や学習活動の支援

(2) 教職員の能力・適性を生かした時間割作成

- ・教職員一人一人の得意分野を生かし、苦手分野に配慮した出入り教科の決定
- ・年間を見通した持ち時数の調整による業務の平準化

(3) 高度な知識・技能を有する外部人材の活用

- ・外部人材の授業の参画（小学校1年生のタブレット学習の導入、AIドリル、プログラミング教育等）
- ・教職員のICT活用に関する疑問や困りごとへの対応
- ・学校評価におけるデジタル化や集計作業のDX化等、校務の効率化に向けた支援



2 取組の成果

- (1) SSS の学校貢献度は高く、依頼した業務を迅速かつ的確に遂行してくれることで教職員の負担軽減に大きく寄与している。校内環境整備や教材準備等を安心して任せられる体制が整ったことで、教職員が本来注力すべき「子供と向き合う時間」を確保する時間ができた。本年度は、校舎内の環境整備にも積極的に取り組み、職員や来客用玄関前の廊下、階段の踊り場の壁面掲示等、見る大人や子供たちがわくわくするような掲示で彩られた。子供たちは、季節ごとに変わる掲示を楽しみにしており、掲示を見て心の豊かさを育む一助となった。さらに、趣味や特技を生かし音楽の授業にゲストティーチャーとして、SSS と養護教諭を招いた。本物の楽器の大きさや重さを実感できる貴重な体験となった。実際にマウスピースを持って音を出すことも行い、学びへの意欲を高める有意義な時間となった。
- (2) 1年間を見通した時間割の編成は、教育活動全体の質を左右する重要な要素である。教職員の個々の力量を最大限に発揮できる体制を整えるとともに、精神的・時間的な負担感の軽減を図ることができた。得意分野を生かした授業を展開することで、授業の質も向上し結果として子供たちの学びの充実につながっている。
- (3) DX 化が進むのは、非常に意義のある一方で、日々の業務と並行して進めることには限界がある。下田市が連携している民間との連携により、ICT を活用した授業支援や、教職員の ICT 活用に関するサポートを受けることができるので、校務の効率化と教育の質の向上の両立に大きく寄与している。

3 取組の課題

●全体と個との両輪で

学校全体で、特定の教職員への過重負担や孤立がないよう、組織として支え合う体制づくりや日々の業務改善と、教職員個人のタイムマネジメントの意識向上の全体と個とのバランスで進めていくこと。

●子供と向き合う時間とリスキング

働き方改革によって生まれた時間的なゆとりを、子供と向き合う時間だけでなく、教職員自身のリスキングや余暇の充実にあてることで、教員として働くことに「やりがい」や「生きがい」を感じながら、教育活動に取り組める学校づくりを目指したい。

令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」取組状況報告書

富士市立富士見台小学校

1 取組内容

地域との連携、SSSによる教職員の仕事量の削減

- (1) サポーター活動による教職員の負担軽減
- (2) SSSの効果的な活用

2 取組の成果

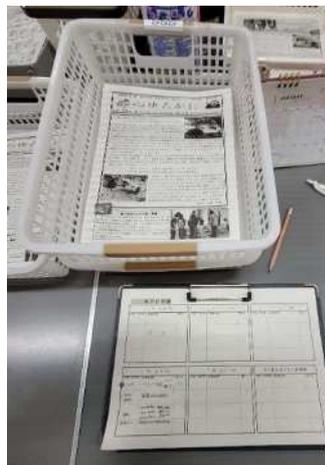
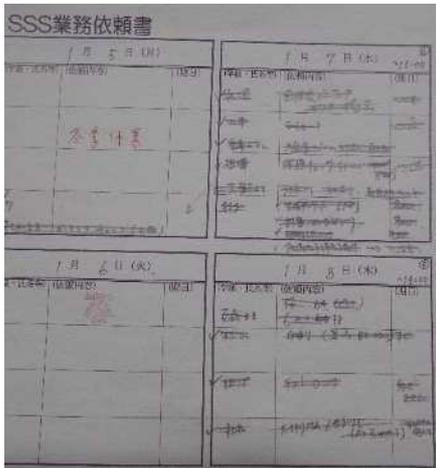
(1) 資料1で示されているサポーターチームの方々が、以前は教員が行っていた多くの仕事を担ってくださっており、学習面でも準備等の負担を軽減している。全11チームに所属するサポーターが、教職員の仕事だったものを請け負ってくれている。

〈資料1〉

* 令和7年度 チーム富士見台サポーター活動 年間スケジュール【計画】 *

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和7年度CS	入学式(4/5)	CS(5/15)	第1回CS(5/15)	第2回CS(6/13)	第3回CS(7/13)	第4回CS(8/13)	第5回CS(9/13)	第6回CS(10/13)	第7回CS(11/13)	第8回CS(12/13)	第9回CS(1/13)	卒業式(3/15)
車庫リ・車取り・掃除	実 施 日： 月2回(第2・4水曜日/雨天中止) 9:00~11:00 玄関前集積 実施内容： 学校内や学校周辺の車取りおよび車取り、植木の手入れ、フェンス塗料、農業上の作成(文化祭にて無料配布)、必要に応じて校内の掃除、ヘチマでたわし作り、落ち葉ポール管理											
畑	実 施 日： 月2回(第1・3水曜日/雨天中止) 9:00~10:30(7~8月: 8:30~10:00、12月~2月: 活動休止) 玄関前集積 実施内容： 各学年の畑づくり(耕し・肥料撒き・マルチ掛け)、畑の手入れ指導(1年: まつまいも、2年: 夏野菜・秋野菜・キャベツ、3年: 決定、4年: ヘチマ、5年: アドバイス、くすのき・多量)											
花壇	実 施 日： 月2回(第2・4水曜日/雨天中止) 8:30~10:30 および、環境整備委員会の活動日 実施内容： 花壇での草の取除き・管理、環境整備委員会との共同で草の取除き・手入れ、環境整備委員会の指導、チューリップの移植植え付け											
清掃	実 施 日： ①6月16日(月) ②9月24日(水) ③11月19日(水) ④1月19日(月) ⑤2月16日(月) 13:20~14:20 実施内容： 子どもと一緒に清掃。子どもの手の届かない場所の清掃(場所は随時)											
自習見守り	実 施 日： ①4月23日(水) ②7月10日(水) ③10月17日(水) ④11月6日(水) 実施内容： 研修授業などで学級担任が不在になるケースの自習を見守る											
食下校見守り	実 施 日： 食下校見守りは毎日、不審者対策は特に定めない(散歩・ウォーキング・買い物などの「ながら見守り」) 実施内容： 交通安全見守り・指導、子どもの見送り・出迎え、不審者対策、6年生と地域安全計画											
講 義	実 施 日： 月・水・金の豊秋日(特別日課日を除く) 10:15~10:30 実施内容： 児童への学習用品販売											
読み聞かせ	実 施 日： ①5月9日 ②5月16日 ③6月27日 ④7月4日 ⑤7月11日 ⑥9月12日 ⑦9月19日 ⑧10月3日 ⑨10月17日 ⑩11月7日 ⑪12月5日 ⑫12月12日 ⑬1月9日 ⑭1月23日 ⑮2月6日 ⑯2月13日 ⑰3月6日 実施内容： 各学級での読み聞かせ(全曜日 全10~25年間17回)											
遊 び	実 施 日： クラブ活動補助、音の遊び(12月: 1年生対象) クラブ活動: ①5月20日 ②5月29日 ③9月11日 ④11月11日 ⑤11月27日 ⑥12月4日 14:35~15:20 音の遊び体験: 日時未定 実施内容： 音の遊びや物づくりを子どもたちに伝える											
図書整理費	実 施 日： ①6月4日 ②7月2日 ③7月16日 ④9月10日 ⑤9月24日 ⑥10月22日 ⑦11月19日 ⑧12月3日 ⑨12月10日 ⑩1月7日 ⑪1月14日 ⑫3月4日 ⑬3月11日 10:30~11:30 年間13回 実施内容： 図書とは、図書の本の整理や、掲示物の作成および図書館の準備整備を行う											
学習活動支援	実 施 日： 随時(マホコにて随時連絡します) 実施内容： 低学年: ノートやプリントの丸付け、九九の対応など 中学年: そろばんや算数の授業補助など 高学年: 家庭科の授業支援や地域活動の見守りなど											

(2) SSSへの仕事を依頼する際には、資料2のような連絡票を用いて伝達をしている。より優先順位が高いもの、緊急性が高いものなどから作業を行っていただくことで、教員の仕事の負担が大きく軽減されている。また、本校では、採点やプリントの丸付けを依頼する担任も多く、業務量を減らすこともできている。



〈資料2〉

左: 仕事内容、期日などを記載する業務依頼書
これを使って、効率的に業務を依頼している。

右: 依頼する仕事BOX
印刷やテスト丸付けなど、使用するものを入れ、作業順などを整理している。

3 取組の課題

地域との連携が、本校は十分できており、大きな課題は見当たらない。今後も継続してたくさんの方に参加いただけるように、児童、教員からもきちんと感謝の気持ちを伝えるなど、積極的に関わっていく。

逆に、SSS への仕事の振り方をもう少し教員間できちんと共通認識する必要があると感じる。上手に活用できている教員の実践例を紹介していくなど、多くの教員に支援が均等にいくようにする必要があると感じた。また、いくら業務削減とはいえ、学級担任として自分がやらなければいけないこともあるので、若手教員が増えている現状も加味しながら、お願いできる内容などを共通認識するようしていきたいと考えている。

様式1 令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」による学校の働き方改革取組状況報告書

磐田市立磐田中部小学校

1 取組内容【人的資源の配置・活用】

校内資源（相談員・支援員）と外部資源（SSW・外部機関）を整理し、教員の直接的な事務負担・心理的負担を軽減する体制を構築した。



校内支援教育センター「オアシス」

(1) 校内教育支援センターの柔軟な運営と「持続可能」な体制の構築

従来の「担任がすべてを抱える不登校支援」から、相談員・支援員を中心とした「無理のない組織的支援」を目指した。

- ①拠点校方式による効率運用のため、相談員1名を2校でシェアし、相談員不在時は教職員で補完した。ただし担任の助勤（空き時間の消失等）を発生させない配置を徹底した。
- ②実態に応じた開設時間の弾力的運用のため、1学期の実績を踏まえ、2学期からは午前みの開設に変更した。「あえて縮小」する判断を行い、教職員の過度な負担を防止した。
- ③ICTを活用した事前告知を徹底させるため、行事等による閉鎖時は、2週間前に保護者連絡アプリや児童用端末で通知した。急な対応や個別連絡の手間を省き、利用側の自立的判断を促した。
- ④情報のデジタル化と非同期共有のため、「スズキ校務」や「ミライム」を活用。報告書作成時間を短縮し、関係者が各自の空き時間に情報を確認できる「非同期型」の共有体制を増やした。

(2) SSW（スクールソーシャルワーカー）の役割分担による担任負担の軽減

- ①家庭訪問・保護者面談を積極的に進めた。特に、放課後に集中しがちな家庭訪問を午前中から行い、保護者の都合に合わせてられるようにSSWへ依頼した。担任は「緊急性の高い面談」に注力し、継続的な見守りはSSWも行うという役割分担を明確化した。
- ②支援対象児童の整理をした。校内の特別支援協議会「夢talk」等を通してSC（スクールカウンセラー）は校内支援、SSWは校外支援と支援対象児童を分けることで、支援の重複と調整会議の無駄を排除した。

(3) 支援員等の活用による安全管理と授業準備の効率化

- ①水泳学習等の複数指導体制を整えるため、猛暑下での安全確保（見学

者対応含む) を支援員と共に担うことで、休み時間の準備や片付けを支援員が主に行い、指導教員が授業に専念できる環境づくりをした。

- ②スケジュール可視化による調整時間削減を目指した。職員室への掲示を徹底し、直前の人手不足や連絡ミスを防ぐことで、当日の混乱による時間ロスを最小限にした。

2 取組の成果

- (1) 「コドモン」や「スズキ校務」、「Google Classroom」を活用し、従来アナログで行っていた業務をデジタルへ移行したことで、事務時間の削減と複数でのリアルタイムの情報共有が可能になった。校内支援センターの担任の助勤ほぼ0%。水泳授業の複数支援体制100%。
- (2) 意思決定の迅速化と放課後業務の解消
「完璧な準備よりも、迅速な着手」に重点を置き、組織の行動を調整した。会議の短縮化でできた時間を具体的な「児童への対応（アクション）」に直接充当した。業務の「先送り」を防ぎ、放課後の業務圧迫を解消した。

3 今後の課題

- (1) 相談員・支援員も含めた職員の一人一台端末の整備が整っていない。また、フリースクール等の外部施設とのやり取りにおいて、いまだにFAXや電話、紙への記入作業が残っている。さらに、校内における有力情報もデジタル上で一元管理・共有できるデータ連携ツールの導入が必要である。
- (2) 複数職員で校内支援センターを利用する児童に関わることは、担任のメンタル的な負担軽減につながっているが、支援方法の違いによる悩みや相談が多くなると相談員や支援員のメンタル的な負担が増え、課題が移行した結果になった。
- (3) 不登校支援や外部連携が、依然として担任の「追加業務」という性質を脱していない。児童を取り巻く問題は多岐にわたり、日々変化する問題に対応するためには、これらを一括して担う専門のコーディネーターを配置することで、教員が本来の授業づくりに専念できる体制を強化できると考える。
- (4) スズキ校務で、支援に必要な情報だけを取り上げたくても、情報が多すぎる児童に関しては、膨大な校務データから必要な支援情報を即座に抽出・要約できる環境を整備することが必要だと思う。

様式 1

令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

御殿場市立原里小学校

1 取組内容〔(1) 人的資源の配置・活用〕

地域の人的資源を生かしたクラブ活動の実施

本校では、今年度から社会に開かれた教育課程やコミュニティスクールに向けた取組がスタートした。それに伴い、校長が中心となり、地域の人的資源（以下「外部講師」）を生かしてクラブ活動が実施できるよう、昨年度から準備を進めた。



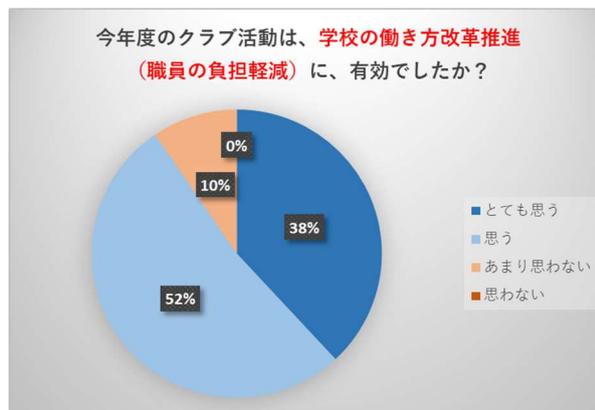
今年度のクラブ活動は、外部講師が主に指導し（T1）、教職員（県事務含む）が支援する（T2）という体制で役割を分担した。実施したクラブは、外部講師から指導できると申し出があった以下の19種類である。



将棋・モルック・けん玉・切り絵・スナッグゴルフ・しめ飾り作り・裁縫・茶道・竹細工・バレーボール・石鹸カービング・カンファー・エアロビクス・アイシングクッキー・フラワーデザイン・科学①②・生物・卓球

2 取組の成果

今年度のクラブ活動終了後、次年度に引き継ぐためにアンケート（回答者数21人）を行った。働き方改革推進（職員の負担軽減）に関わる質問「今年度のクラブ活動は、学校の働き方改革推進（職員の負担軽減）に、有効でしたか？」に対して、肯定的な回答



（とても思う・思う）が90%という結果だった。したがって、今年度のクラブ活動は、学校の働き方改革推進（職員の負担軽減）に有効であったと言える。以下は、アンケートで寄せられた意見である。

- 各クラブに複数の大人（外部講師と教職員）がいるのは、ありがたい。

- 外部講師が企画、準備を主に担ってくれるため、教職員は安全確認や個に応じた指導等、サポート役に徹することができる。 ※同意見他 6
- 外部講師と関りながら、グループの子供同士で協力して活動する姿が見られた。また、回数を重ねるごとに子供たちの技術が向上した。
- 外部講師の御指導の下、カンフーや茶道など普段あまり馴染みがない種目に触れ、子供たちは動きや道具を興味深そうに体験していた。また、クラブ活動で教わったことを家族に伝えたり、実践したりするなど、昨年度までよりも進んで取り組む姿が多く見られた。

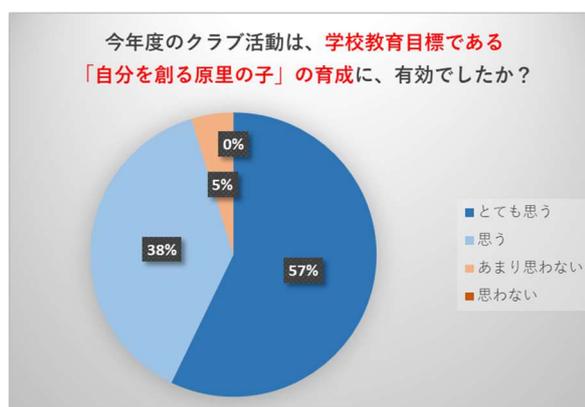


3 取組の課題

上記アンケートにおいて、否定的な回答（あまり思わない・思わない）も10%ながらあった。以下は、アンケートで寄せられた意見である。

- ▲ 外部講師探しや、連絡、時間調整、当日の接待など、担当の職員は負担が大きいと感じる。
- ▲ 外部講師が不在の日があり、難しさを感じた。 ※同意見他 3
- ▲ クラブの数が19種類と多く、各クラブを担当する職員はほとんどが1人だったため、負担があったように思う。

他の質問「今年度のクラブ活動は、学校教育目標である『自分を創る原里の子』の育成に、有効でしたか？」に対して、肯定的な回答（とても思う・思う）が95%、否定的な回答（あまり思わない・思わない）が5%という結果だった。したがって、今年度のクラブ活動は、本校が目指す子供の育成に有効であったと言える。外部講師を招聘したクラブ活動は、今年度からの新しい試みということもあり、多くの成果があった一方で課題も浮き彫りとなったが、これらを踏まえ、次年度以降のクラブ活動をさらに充実したものとしていきたい。



様式1

令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

東伊豆町立熱川小学校

1 取組内容【人的資源の配置・活用 ～地域、保護者との連携による外部人材の確保】

① 地域人材の募集

R6 年度の学校評価において、「本校の教育活動をより充実していくために、地域や保護者に広く呼びかけ、人材を確保していきたい」という意見が出された。そこで、今年度のPTA総会で協力をお願いした。また、全家庭に「地域人材協力をお願い」のたよりを発行し、募集を行った。今回の募集では、3名と1グループの方が家庭科(ミシン)の手伝いなどで協力を申し出てくださった。

② 「地域おこし協力隊」の活用

東伊豆町から委託されて活動を行っている「地域おこし協力隊」の方に協力を依頼した。クラブ活動の講師や総合的な学習の時間のゲストティーチャーとして、何度か学校に足を運んでもらい、子供たちに実技指導をしてもらったり、講話をしてもらったりした。

③ 読み聞かせボランティア「鈴の会」の充実した活用

これまでも、6月以降の第1木曜日や読書旬間中の朝活動の時間に読み聞かせをしてもらっていた。今年度は、読書旬間中の読み聞かせを見直し、約2週間ある旬間の1週間に集中して読み聞かせを行ってもらった。

2 取組の成果

① 主に、家庭科で地域人材を活用した。ミシンを使う学習では、授業者一人では子供たち一人一人の困り感に上手に寄り添えないことが多い。しかし、ミシンボランティアとして複数人参加してもらえたことで、子供たちの「困った」に素早く対応することができた。それにより、子供たちが安心して学習に取り組み、「上手に作ることができた」などの達成感を味わうことができた。また、ミシンの不具合についても授業前や授業後に見てもらえたので、授業者の負担軽減に繋がった。

② 6年生の総合の授業の一環として、他の地域で生まれ育った方から生の声を聞くことで、子供たちは東伊豆の良さを改めて感じたり、よりよくするためにはどんなことが必要かを自分事として考えたりすることができた。また、クラブの講師として絵の描き方を専門的に教えていただいたことで、子供たちが生き生きと活動に取り組んだ。

③ 読み聞かせ期間を集中して確保したことで、いろいろな話に出会うことができ、子供たちの本に対する興味関心を高めることができた。「〇〇の本が面白かった。自分でも読んでみたい」など、読書への取り組みにつなげていくこともできた。

3 取組の課題

協力してくださる地域の方のおかげで、子供たちにとって充実した活動になっていることを日々実感している。その一方で、各授業での協力依頼や日程調整は、授業者や担当者が行ったため、日々の業務で忙しい授業者や担当者の負担になってしまった。今後は、教務が窓口となり、協力依頼や日程調整をしていくことで、外部人材の確保・活用を円滑かつ活発にしていきたい。

様式 1

令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

富士立大淵第一小学校

1 取組内容〔地域・家庭、関係機関等との連携・協働〕

～家庭・地域を巻き込んだ学校行事等への協力体制の確立～

本校は、コミュニティ・スクール6年目を迎え、本年度後期学校評価アンケートの質問項目「CS ディレクターを中心に地域と連携が深まってきていると感じる。地域や保護者の方々が学校の教育活動に参加しやすくなったと感じる」において、肯定的な回答をした保護者が78%となった。（昨年度後期70%、一昨年度後期65%）同様の質問項目について、教職員は毎年95%に近い肯定的回答が得られていたものの、協力側の保護者にコミュニティ・スクールの意義や理解が浸透していないことが課題となっていたが、今年度はさらに数値が高い結果を得ることができた。

その大きな要因の1つとして、今年度は各行事において、保護者や地域への協力をお願いする体制のさらなる確立とその浸透が考えられる。その成果を以下の図で紹介する。

2 取組の成果

・各行事等の外部協力を得るための進め方

（例）体育科 体力テスト

事前

子供たちの見守りや整列を保護者の方にしてもらいたい

相談者からの声を
まず受け止める

※1

CS ディレクターがマチコミメール発信用の元原稿を作成し主幹へ（CS ディレクター）

※2

マチコミメールを発信し、期日を決め、アンケート機能を使い集約する（主幹）

集約データをCS ディレクターに渡し、協力を得る保護者へ連絡（CS ディレクター）

当日の受付を事務室やCS ディレクターが行う

協力者リストを、担当教職員へ（CS ディレクター）

当日

活動に協力してもらい、事後反省を行う

※1 原稿文例

保護者の皆様

日頃より、学校教育にご理解とご協力をいただきありがとうございます。添付ファイルの日程にて、体力テストを行います。活動中の見守りボランティアを募集しておりますので、ご協力いただける方は、アンケートにお答えし、回答していただきますようお願いいたします。尚、雨天等で実施が延期する場合がございますので、その際はその都度、ボランティアの方にご連絡を差し上げます。

※2 アンケート（マチコミ）

アンケートの更新	
アンケート名	: 体力テスト見守り
質問1	: ご協力いただける保護者の方のお名前
回答1	: 自由入力 <input type="checkbox"/> 回答必須 <input type="checkbox"/>
質問2	: 連絡が付く携帯番号
回答2	: 自由入力 <input type="checkbox"/> 回答必須 <input type="checkbox"/>
質問3	: お子様の学年（複数在籍の場合は担当し）
回答3	: <input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年 <input type="checkbox"/> 5年 <input type="checkbox"/> 6年
質問4	: お子様のお名前（複数在籍の場合は担当し）
回答4	: 自由入力 <input type="checkbox"/> 回答必須 <input type="checkbox"/>

本校では、前ページの図のように、学年部や教科主任の声をCSディレクターが吸い上げ、CSディレクターによる文書作成、主幹による文書発信やアンケート集約、CSディレクターによる保護者への連絡を行い、担当者に返す流れとなっている。そのため、声を上げた担当者の負担がなく行事を迎えられるようになっている。また、協力する保護者側も、簡単なアンケートに答え、CSディレクターからの電話連絡を待つのみとなっている。

このような流れによる今年度の行事は多岐に渡り、主な教育活動を挙げると、

水泳ボランティア、研修による自習見守りボランティア、社会科見学ボランティア、体力テストボランティア、図工活動ボランティア、交通安全教室ボランティア など

があり、このような体制のもと保護者等の協力を得て活動を行った。また、今年度は、少子化による児童減少に伴い、清掃が行き届かない場所が多くなり、トイレ清掃を保護者に依頼した。また、学校ビオトープの整備もお願いし、施設面に關わるボランティア依頼の担当は教頭が窓口となり、マチコミやFormsを使って参加を依頼し、当日はCSディレクターや事務室が受付となって来てくださった方に声を掛けるようにしている。

こうした取組やお願いのメールが文書やマチコミで多く発信されるようになり、ようやく地域や家庭と連携・協働し、子供たちの安全や安心を確保し、かつ質の高い教育活動ができるようになったと考える。今年度本校に赴任してきた教員は、

少し手が足りない行事に手伝ってくれる保護者の方がたくさんいるのはありがたい。また、声を上げた自分が連絡の全てを行うのではなく、他の職員の方が助けてくださり、日中の大事な授業に専念できる。

という声が聞けた。また、学校評価による自由記述で保護者から、

・地域の人と連携を取れているところが良いと思います。
・地域のみんなで子供達を育てている感じがする。
・一人ひとりに光を当てていく事は物理的にも大変ですし、どうしても一律一斉になってしまうと思います。昔と異なり、子どもの実態が幅広いと思います。いまは一年生しかサポートが入らないそうですが、先生方の負担軽減の為に全学年にサポートが入るといいです。もし保護者にできる事があれば…保育園みたいに授業参加みたいな、参観ではなく先生をサポートできるような、何か我々にも協力できることがあればさせて下さい。

といった温かい言葉もいただくことができた。

また、子供たちからも、

・いろんな先生がやさしくて、家の人に参加してくれる授業あるから楽しい。
・見学や体験など楽しい行事がいっぱいある。
・うちのお母さん、またボランティア参加するって。

というように、教員だけでなく、たくさんの人に支えてもらったり、教えてもらったりして学校生活を送ることができている思いをもつ子供もいた。

3 取組の課題

- ・CSディレクターの仕事量を増やしてしまっていることも多く、頼りすぎが生じている。担任や教科主任を多忙にさせない取組となっているが、行事が多くなればなるほど教頭や主幹、CSディレクター、事務室は多忙化していく。発信量や対応量が増えるため根本となる行事のスリム化を考えていく必要がある。
- ・ここまで地域とつながる意識が高まってきたのは、長年在籍するCSディレクターが保護者や地域の実態を知り尽くしており、多くの地域人材とつながりをもっていることが大きい。また、教職員の思いを聞き、率先して関係者と連絡を取ってもらうなど、見通しをもった早めの対応を担当の授業中などにしてくれからこそ、力強い連携ができていく。CSディレクターの地位の向上や勤務体制をより考えるきっかけにさせていただくとありがたい。
- ・協力してほしい行事にたくさんの参加があるものの、固定化している面がある。今後、さらに保護者や地域と連携・協働した学校をつくっていくためにも、さらに発信を進め、より協力したくなる行事に変えていく必要もある。
- ・外部に協力を得る活動が、教員の働き方改革や業務改善につながるようにしたい。

様式 1

令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」による学校の働き方改革取組状況報告書

小山町立成美小学校

1 取組内容〔 人的資源の配置・活用 〕

(1) 学校ボランティアの有効活用

学校ボランティアを教員が円滑に依頼できるようにするため、新たに「依頼票」を作成した。教員が依頼票を提出し、教頭が内容を確認した上で学校ボランティアへメールを配信する仕組みとしたことで、必要に応じて計画的にボランティアを募ることが可能となった。

今年度は、プール清掃、校内整備、家庭科調理実習・裁縫補助での募集を行い活動していただいた。

ボランティア依頼票	
依頼者	校長・教頭・宇根山・渡邊・鈴木・土屋・渡山・古香・徳元・辻・教員
依頼内容	事務室 () 学年・学級 ()
内容	教科 []
	単元名 []
	依頼内容
時期	日付 月 日 ()
	時間 () ~ ()
その他	※必要人数 ※必要な指導や教材・準備物 ※事前打ち合わせの有無 など

ボランティア依頼票

(2) お便りの内容や発行の見直し

昨年度末より、学校便りに全学年の月行事予定および下校時刻を掲載するとともに、これまで長期休業前に各学年で発行していた学年便り（春・夏・冬休み号）を見直し、教務主任が全学年共通の「長期休み号」として発行することとした。

また、2学期より紙媒体での配付を廃止し、学校ホームページ上への掲載に切り替えた。

(3) 教員打合せのやり方を見直し

これまで口頭で行っていた週1回の職員打合せについて、Microsoft Teams を活用し、打合せ用の共有枠を配信する運用に変更した。連絡事項のある教員は、打合せ当日までにその枠へ内容を記入し、教職員各自が事前に確認することとした。なお、打合せ当日に急遽生じた連絡事項や、詳細な説明が必要な内容については、従来どおり口頭での伝達を行った。

2 取組の成果

(1) 依頼方法や手続きが校内で統一され、教員が個別に調整や連絡を行う必要がなくなっただけでなく、業務負担の軽減につながった。また、依頼内容が明確化されたことで、ボランティア募集が円滑に行えるようになった。

(2) 教職員および保護者が、宿題や持ち物等の全学年共通事項を一括して確認しやすくなり、情報の伝達漏れや認識の差の解消につながっている。

HP 掲載により、配付漏れや紛失による再発行が解消されるとともに、保護者が必要な時にいつでも内容を確認できる環境が整った。加えて、重要な連絡事項が生じた際には、訂正や追加を速やかに行い、正確な情報を伝達できるようになった。

(3) 教員は都合のよい時間に連絡事項を入力できるようになり、伝え忘れの解消につながった。また、出張や不在時であっても、パソコン上で内容を確認できる環境であるため、全職員へ確実に伝達された。さらに、共有が必要な重要文書を添付することで、紙媒体での配付漏れや紛失を防ぐことができた。

3 取組の課題

教員が一人一台端末を使用している環境の利点を、さらに有効活用する必要がある。今後は、教務だより等についてもデジタル配信を進めることが可能であり、今年度から始めた取組を、会議資料や教務だよりの運用などにおいて、より一層活用していきたい。

その過程を通して、教員が ICT 機器の活用に慣れるとともに、業務内容や手順の共有が進み、業務の引継ぎが円滑になることが期待される。また、教材や各種情報の共有が容易になることで、学校全体の業務改善につながると考えられる。



令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

湖西市立白須賀小学校

1 取組内容〔地域・家庭、関係機関等との連携・協働〕

全校児童 140 名、教職員数 15 名程度という小規模校である。令和 6 年度から PTA 活動が縮小され、役員 20 人だったのを、本部役員 5 人体制までスリム化した。子どもの活動の見守りや成長の後押しのための人材不足は、地域や家庭との連携・協働でカバーしていくことが必須である。そこで、メール配信の返信機能やアンケート機能を使って以下のボランティアを募集し、取組を行った。

①学習ボランティア

6 年生家庭科・・・ミシン補助

②読み聞かせボランティア・・・各クラスで朝の時間を使って読み聞かせ

③学校行事ボランティア

奉仕作業・・・運動会前の奉仕作業で、子どもと一緒に運動場の整備や側溝の掃除

運動会・・・児童用テント設営、駐車場整理、用具準備など

持久走大会・・・児童観察・見守り

④交通安全見守りボランティア・・・児童の登下校の見守り・声掛け

⑤ビオトープ整備ボランティア

地域の NPO 法人「シラスカリフォルニア」に協力を依頼し子どもから募集したボランティアと共に、中庭の池の水を抜き、藻をとったり、水草を刈ったりする作業を行った。水を抜くための大型ポンプを持ってきてくれたり、土で埋まった溝をスコップで掘ってよみがえらせてくれたりと、手際よくきれいにビオトープの整備を行うことができた。



⑥校内環境整備ボランティア

学校運営協議会の委員が、学校と保護者、自治会、ボランティア団体等とつなぐコーディネーター役を引き受けてくれた。集まったボランティア約 20 名で、校内の草刈りを 2 回、運動場内の除草剤散布と草集めを 1 回行った。ボランティアの皆さんほとんどが草刈り機持参で参加してくれたおかげで、短時間で依頼した場所を整備することができた。

2 取組の成果

- ・保護者や地域の大人が子どもと関わることで、安心・安全な活動となった。
- ・ボランティアの協力のおかげで、行事の円滑な運営、職員の負担軽減につながった。

3 取組の課題

「学校の力になりたい。」という強い気持ちをもっている地域の方々が、たくさんいることがわかった。その気持ちをうまく学校教育と結びつけ、子どもたちの学びの充実や業務改善につなげていきたい。そのために、年間を見通して、必要のあるボランティアの内容を洗い出し、計画を立てておくことが必要である。さらに、臨機応変に依頼できる体制づくりも構築していきたい。

様式 1

令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

小山町立須走中学校

1 取組内容〔地域・家庭、関係機関との連携・協働〕

昨年度より、須走地区「学校運営協議会（CS）」が立ち上がり、保護者や地域の方の力を借りて子供たちの教育活動や教育環境の充実を図っている。また、令和9年度の小中一貫校化に向けた協議や検討会においても、地域の方との連携を図っている。学校運営協議会事務局が中心となり、地域学校運営本部（学校応援ボランティア）の募集や日程調整を進めた。本年度協力を依頼し、実施した内容は次の通りである。

- (1) 家庭科ボランティア
 - 調理実習の支援 など
- (2) 環境整備ボランティア
 - 校庭の草刈り など
- (3) 読み聞かせボランティア／登下校時の見守りボランティア
(本年度未実施、今後も募集継続予定)

【学校ボランティア追加募集チラシ】※学校だよりにて掲載

学校応援団（ボランティア）



12月9日と16日、家庭科「お正月料理に挑戦」では地域のボランティアの方々にお越しいただいて調理実習をしました。1時間の授業で「田作り」「ごはん」「味噌汁」の3品を作るとあって時間内に料理できるか心配しましたが、ボランティアの方々が支援をしてくださったおかげで、生徒は楽しく実習をすることができました。

授業後、ボランティアの方々に感想を聞いたところ「一緒に活動できて楽しかった」「中学生ってかわいいね。」と嬉しそうに話してくださいました。ありがとうございました。

学校応援団員募集中！！ できるときに、できることを...



ボランティアの内容

- 家庭科のお手伝い
- 読み聞かせ
- 花壇の整備・草刈り
- 登下校の見守り など

問合せ：須走中教頭 75-2004

※学校だよりにて掲載

学校だよりは、本校生徒（保護者）だけでなく、地域回覧も行われている。調理実習ボランティアの方々の様子も発信している。

また、須走地区内の交番（警察）とも連携を図り、校内巡視を実施したり、生徒指導案件が起きた際に早めの対応や相談を行えたりしている。

2 取組の成果

- (1) 調理実習の準備や片付け、苦手な活動のある生徒への支援や助言等を行っていただき、授業担当教諭は常に全体を見渡すことができている。そのため、学習効率が上がるだけでなく、事故や怪我等を防ぐ安全確保にもつながっている。
- (2) ボランティアの方々に環境を整備していただくことにより、環境美化とともに、生徒の情操を育むことにもつながっている。
- (3) ボランティアに対する感謝の気持ちを育む等、道徳教育にもつながっている。
- (4) ボランティアによる見届けや作業補助を行っていただくことにより、授業1コマ（50分）の中で、各調理と片づけを完了することができ、作業効率の向上をタイムマネジメントにもつながっている。
- (5) 警察との連携により、生徒個人や学校の様子を共有するだけでなく、各家庭や地域（地域施設）に関する情報共有を行い、生徒支援につなげることができている。

3 取組の課題

- (1) 現在、ボランティアの募集や集約を教員が行っているが、今後は地域コーディネーターを選定し、地域の力を積極的に導入していきたい。
- (2) コミュニティ・スクールの推進に向けて、どのように活動の充実を図るか、学校運営協議会での熟議が必要である。
- (3) いつでも気楽に学校ボランティアの支援を受けられるように、「学校支援お願いリスト」を作成し、教員の意識改革を図る。

様式 1

令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

函南町立函南中学校

1 取組内容〔(1)人的資源の配置・活用〕〔(2)校務の分類・整理と見直し〕

(1)学校運営協議員の学習ボランティア、グリーンボランティア

これまで、定期テスト前や3年生の受検対策学習会を放課後に実施しており、すべての時間帯に教員が付き添って対応していた。そこを、学校運営協議員に『学習ボランティア』として参加していただき、放課後の学習会における見守りや学習支援を担っていただく体制を整えた。

また、『グリーンボランティア』として、平日や部活動の大会前には、グラウンドや校地内の草刈り、清掃活動などの環境整備にも取り組んでいただいた。



(2) ICT 機器を活用した三者面談希望日の自動割り振り、緊急引き渡し対応

三者面談の日程調整において、これまで教員が手作業で行っていた希望日の集約・割り振り作業を見直し、Google フォームおよびスプレッドシートを活用した自動割り振りの仕組みを導入した。

また、緊急引き渡しを行う際、これまで担任が学級名簿で引き渡し状況を確認していた方法を見直し、スプレッドシートを用いた共同編集による管理に変更した。

	A	B	C	D	E	F
	氏名	第1希望	第2希望	第3希望	第4希望	第5希望
1	連絡台登録済					
2	本番					
3	連絡台登録済					
4	連絡台登録済					
5	連絡台登録済					
6	連絡台登録済					
7	連絡台登録済					
8	連絡台登録済					
9	連絡台登録済					
10	連絡台登録済					
11	連絡台登録済					
12	連絡台登録済					
13	連絡台登録済					
14	連絡台登録済					
15	連絡台登録済					
16	連絡台登録済					
17	連絡台登録済					
18	連絡台登録済					
19	連絡台登録済					
20	連絡台登録済					
21	連絡台登録済					
22	連絡台登録済					
23	連絡台登録済					
24	連絡台登録済					
25	連絡台登録済					

2 取組の成果

(1) 学校運営協議員が学習の様子を見守り、生徒への声かけや学習の促しを行うことで、教員が常時対応する必要がなくなり、教員の業務負担軽減につながった。地域と連携した学習支援の場を設けることで、生徒にとっても多様な大人と関わる機会となり、安心して学習に取り組める環境づくりにも寄与している。また、教員が行っていた環境整備に関わる業務を分担することができ、人的資源を効果的に活用した学校運営の推進につながっている。これらの取り組みにより、教員の授業準備や生徒理解に充てる時間が拡充した。

(2) 保護者からの希望日時をデータで一元管理し、あらかじめ設定した面談枠に基づいて自動的に割り振ることで、調整作業にかかる時間と労力を削減し、教員の業務負担軽減につながった。緊急引き渡しでは、各クラスの状況をリアルタイムで全体共有することが可能となり、管理職や教職員全体が学校全体の状況を即時に把握できる体制を整えた。これにより、確認作業の重複を防ぐとともに、緊急時における迅速かつ的確な対応につながっている。

3 取組の課題

学校運営協議員によるボランティア活動については、活動内容の拡充に伴い、人材確保や活動時間・役割分担の継続的な連携が今後の課題である。また、安全管理や活動時の連絡体制についても、より一層の整理が必要である。ICT活用による業務改善については、操作方法や運用ルールが一部の教職員に依存しやすい状況が見られるため、全教職員が円滑に活用できるよう、共有方法や引き継ぎ体制の整備が求められる。

様式1

令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

磐田市立福田中学校

1 取組内容〔地域・家庭、関係機関等との連携・協働〕

本校では、文部科学省が推進する「地域とともにある学校づくり」を具現化するため、学校運営協議会を核とした「ふくで・コミュニティ・スクール (FCS)」の充実に取り組んでいる。

具体的には、PTA 組織を改革し、地域学校協働本部を中心とした新しい協働体制への移行を目指し、「ウェルビーイング・ふくで」をビジョンに掲げ、CSC と学校・地域・保護者が密に連携し、以下の3つの柱でアクションプランを展開した。

(1) 「こうふくでいこう」プロジェクトの推進

R6 から、放課後や長期休業中の居場所づくりとして「こうふくでいこう」プロジェクトを実施。

(2) 生徒の主体性による学校改革

生徒会による「校則検討プロジェクト」を立ち上げ生徒の手で校則を改善するスチューデントファーストの教育課程を編成。

(3) PTA の組織改革

役員のなり手不足や負担感の解消に向け、本部以外の全委員会を廃止。資源回収をコンテナ設置型へ切り替える、任意参加のあいさつ運動など、持続可能な協力体制へ移行した。

2 取組の成果

(1) 子どもにかかわる成果

ア 居場所の確保と学習習慣の定着

交流センター等での自習スペース設置により、家庭でも学校でもない「第3の居場所」が確立された。不登校傾向や家庭環境に課題を抱える生徒にとっても、安心して過ごせる環境が提供された。夏休み期間だけでも50名以上が交流センターや福田図書館を活用した。



生徒会を中心に検討した校則案を、管理職や担当教諭に提案するプロジェクトリーダー



交流センターや図書館に子供の居場所づくり



地域のイベントで活躍する福祉ユニット「ふくで☆ふれあいスターズ」



敬老の集いでジョイントコンサートを行う福田中吹奏楽部と福田地域バンド

イ 郷土愛と社会貢献意識の高揚

「ユニット活動」への参加者が延べ200人を超え、中学生が地域の一員として認められることで社会貢献意識が高まった。「今住んでいる地域に関心がある」の項目で70%（前年比+10%）の生徒が肯定的な回答をしている。

ウ 主体性と自己有用感の向上

生徒会が主体となった「校則検討プロジェクト」を通じ、校則が大幅に改定された。自分たちの力で学校を変えられるという自己有用感が育まれた。「福田中学校が好きだ」「学校が楽しい」の項目でそれぞれ90%以上の生徒が肯定的な回答をしている。

(2) 教職員にかかわる成果

ア 業務負担の軽減

地域ボランティアの企画や運営、資源回収の運営、登下校の見守り、学校行事の支援などを、保護者や地域住民が担うことで、教職員が授業準備や生徒と向き合う時間に注力できるようになった。

イ 心理的ゆとりの創出

CSCが「教育のパートナー」として学校運営に参画することで、教職員の多忙感が減少した。特にCSCが地域との調整を可能な範囲で協力することで、教頭を含む管理職・教職員の対外的な調整業務が減少した。

(3) 地域や保護者にかかわる成果

ア 参画ハードルの低減

義務的なPTA活動を廃止し、ボランティア制の「心意気のある人の参画」を促した結果、現役世代の保護者が主体的に協力しやすい環境に近づいた。保護者のあいさつ運動や交通見守り活動など、延べ人数として40名以上に協力していただいた。

イ 地域のつながりの再構築

交流センター長や保護者代表、学校代表による「熟議」を重ねることで、コロナ禍をきっかけにやや希薄化していた学校と地域のつながりが「子供の健全育成



地域とともにある学校を目指して
熟議する学校運営協議会



心意気ある人が参加する主体的なPTA活動



地域のごみを拾う
生徒会主催の「地域クリーン」ユニット



学府の小学校を中学生が訪問して、あいさつ運動を行う「あさがお日和」ユニット



震災の能登半島の子どもたちに絵本を送る「海辺をつなぐプロジェクト」絵本300冊以上

とまちづくり」という共通目的の下で再構築された。

ウ 多世代交流の促進

高齢者から子供までが関わる活動が増え、地域インフラ（交流センターや図書館等）が子供たちの学びと交流の場として有効活用されるようになった。

3 取組の課題

(1) 地域協働活動の持続可能性

プラン全体を企画立案するCSDまたは、具体的に地域や保護者と連絡調整をするCSCは非常勤であり、その予算的な配分が課題である。理想的には、各学府にCSDが1名、各学校にCSCが1名いて、それがチームとして活動できると地域協働活動が充実できるだろう。またCSDやCSCの業務支援として、校務用PCやタブレット、携帯電話の支給が必要である。

(2) 地域や交流センターとの連携

学校と地域をつなぐ窓口として、依然として、教頭の負担は大きい。地域からの学校への支援活動、保護者の学校や地域への支援活動、生徒の地域への貢献活動のいずれにしても、その連絡調整を現在のCSCの勤務環境では十分をお願いをすることは難しい。生徒の居場所支援や地域ボランティア活動の連絡調整、PTAの活動支援など、一層充実させたいと考えるが、教頭や教職員の業務としては、限界を超えている。

【参考】教育課程の改善や連携強化等の様々な取組によって超過勤務時間平均は減少傾向にある。一方で、80時間以上を0人にすることは十分に達成できていない点が課題である。

■超過勤務の状況

令和7年12月末現在

福田中 常勤教職員の超過勤務時間の状況（令和7年度）

R6	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均(h)	58	52	52	37	8	47	42	39	27			
45h超(人)	13	10	11	9	0	13	9	7	4			
80h以上	5	6	4	0	0	2	4	3	0			
100h以上	2	1	1	0	0	0	0	0	0			

※令和7年度 超過勤務時間の月平均約41時間、年間平均約362時間（12月末現在）

【参考】福田中 常勤教職員の超過勤務時間の状況（令和6年度）

R6	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均(h)	72	65	64	43	8	53	49	55	29	39	47	36
45h超(人)	5	3	7	14	0	8	12	11	9	11	17	10
80h以上	5	9	8	2	0	7	4	4	0	1	0	0
100h以上	9	6	4	0	0	1	1	4	0	0	2	0

※令和6年度 超過勤務時間の月平均約46時間、年間平均約554時間

【参考】福田中 常勤教職員の超過勤務時間の状況（令和5年度）

R5	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均(h)	76	77	77	54	10	71	66	67	47	46	64	49
45h超(人)	5	11	4	16	0	9	11	10	13	15	14	17
80h以上	11	6	12	5	0	9	8	7	1	1	2	1
100h以上	6	7	5	0	0	5	3	4	0	0	5	0

※令和5年度 超過勤務時間の月平均59時間、年間平均704時間

様式 1

令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

富士宮市立山宮小学校

1 取組内容〔地域・家庭、関係機関との連携・協働〕

本校では、今後本格的な運用を予定している学校運営協議会との連携を見据え、その前段階として地域との結び付きを一層強化してきた。あわせて、活動的な本校PTA組織の強みを生かし、学校支援体制の在り方について検討を進めてきた。これらの取組は、将来的な学校の働き方改革につながるものと考えている。

以下、これまでの取組と今後の見通しについて、三つの視点から振り返る。

① 地域住民との「協働」体制と役割分担

本校では、地域と学校が協働して子どもたちの学びを支えることを目的に、「山宮小サポートクラブ」を立ち上げている。現在、学習支援、環境整備支援、安全見守り支援、読み聞かせ支援の四分野において、PTAや地域の方々に協力をいただいている。以前は学校からの依頼が中心であったが、近年では花壇の除草や畑の整備などを自主的に行ってくださる方も増え、主体的な参画が広がっている（写真：家庭科での学習支援）。



本年度は、PTAおよび地域住民の協力を得ながら、二つの新たな取組を実施した。

一つ目は「キッズゲルニカ」である。キッズゲルニカとは、子どもたちが平和への願いや命の大切さをテーマに、大きなキャンバスに共同で絵を描く平和学習の取組である。学校が中心になって行うことが多いが、本校ではPTAが中心となって企画・運営を行い、学校はそれを支援する形で進めた（写真：キャンバスに絵を描く親子）。芸術活動を通して、児童が平和への思いを表現する貴重な機会となった。



二つ目は性教育の取組である。専門性を要する分野であることから、地域の「あお助産院」に協力を依頼し、助産師・PTA・養護教諭が連携して内容を検討した。今年度は2・4・6年生を対象に順次実施し、児童が自分の体や命について正しく理解し、尊



重なる心を育むことにつながっている（前頁写真：赤ちゃんとその母親と交流する児童）。

これらの取組により、学校・家庭・地域がそれぞれ役割を持ち、それを分担または協力しながら児童の成長を支える体制を整え、教職員の負担軽減にもつながった。

② 「開かれた学校」から「地域と共にある学校」へ

本校では、「地域と共にある学校」という理念のもと、PTA 活動においても地域との連携を重視している。その一環として、PTA 独自の活動を創出し、地域住民の参加を促す取組を進めている。

一つ目の新規事業は、研修委員会主催の「親子折り紙講座」である。折り紙が得意な PTA 会員を講師として迎え、親子で協力しながら作品づくりを行った。家庭と学校をつなぐ交流の場となり、参加者から好評を得た（写真：作品づくりに挑戦する親子）。



二つ目は、校外指導委員会主催の「防災講座」である。山宮地域は富士山噴火時の危険地域に指定されていることから、防災対策は学校・地域共通の重要課題である。今年度は PTA が中心となって自衛隊と連携し、災害時の適切な行動について学ぶ機会を設けた（写真：搬送に挑戦する親子）。地域住民にも参加を呼びかけ、地域全体で防災意識を高めることができた。



これらの活動は PTA 主導で実施することで、教職員の業務負担を増やすことなく、地域連携の深化を図ることにつながった。

③ 地域資源とカリキュラムマネジメントの見直し

本校では、コロナ禍以前から地域との関わりを大切にしてきた。現在は、そのつながりの再構築に取り組んでおり、地域協力による野菜栽培（2年生）やサツマイモづくり（3年生）などの学習活動を継続している（写真：作付けを教わる児童）。

さらに、6年生の学習内容について見直しを行った。これまでの「山宮浅間神社と世界遺産」というテーマに加え、「道」という視点を取り入れた。富士山登山道、山宮御神幸道、国道 469 号など、地域を支える



複数の道に着目することで、人々の営みや地域のつながりを具体的に捉えられるようにした。(写真：昔の道を教わる児童)

このように学びの視点を広げることで、地域の方々と自然に関わる機会が増え、支援を受けながら教育活動を進める体制が整ってきている。結果として教職員の負担軽減につながり、働き方改革の推進にも寄与することになった。



2 取組の成果

これらの取組を通して、地域やPTA、外部機関との連携体制が整い、学校運営における役割分担が進んだことで、教職員の業務の在り方を見直す契機となった。こうした成果を踏まえ、働き方改革がどのように進展したかを改めて整理すると、次のとおりである。

① 業務の分担による負担軽減

地域やPTAとの役割分担が進んだことで、教職員が担う業務の整理と軽減が図られた。行事や講座をPTA主導で実施する体制が定着し、教職員の時間的・精神的負担の軽減につながっている。

② 外部人材活用による業務効率化

性教育など専門性を要する分野において外部機関の協力を得たことで、教職員が単独で対応する必要がなくなり、業務の効率化が進んだ。専門家と連携することで、教育の質の向上と業務負担の軽減を両立できている。

③ 持続可能な支援体制の構築

地域人材の活用により、授業準備や活動運営が円滑になった。学校・家庭・地域が連携する支援体制が整い、継続的に働き方改革を推進できる基盤が構築されつつある。

3 取組の課題

支援活動が一部の地域住民やPTA役員に偏り、特定の方々に負担が集中している点が課題である。そのため、協力者の固定化が進み、新たな人材の参画が広がりにくい状況も見られる。また、外部人材との連絡調整や日程調整、運営管理などの業務が教職員に集中しているため、本来期待される業務軽減につながりきっていない側面もある。

さらに、これらの取組による働き方改革の成果を、業務時間の削減や負担感の変化といった具体的な数値や客観的な指標で十分に把握できていない点も、今後改善していくべき課題である。

様式 1

令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」による学校の働き方改革取組状況報告書 三島市立山田中学校

1 取組内容

〔地域・家庭、関係機関等との連携・協働（１）（２）（３）（４）〕
〔教職員の働き方の見直し（５）（６）〕

近年、教員の業務負担が増加し、働き方改革が喫緊の課題となっています。本校では、地域と連携しながら学校運営を支える「地域学校協働活動」を推進していくこと、また、ICTを活用した業務改善を実施することで、教育の質を向上させ、教員の業務負担軽減を目指して以下の取り組みを行いました。

2 取組の成果

(1) 職業講話の講師依頼

学校運営協議会から委託を受けた地域学校協働本部が、地域の企業や自治体の協力を得て、職業講話の講師を地域の人材から募集しました。今年度は、7名の卒業生の方々を講師として招き、キャリア教育の一環として職業講話を実施しました。教員による講師依頼や調整業務を軽減し、生徒にとって専門的で実践的な学びの機会を提供することができました。

(2) 長期休業中における学習支援ボランティア依頼

地域の方を中心に、長期休業中の学習支援ボランティアを募集しました。今年度は、山田中学校区の地域の方（4名）が協力してくれました。生徒にとって安心して参加できる環境であるため、今年度も多くの生徒が参加しました。成果としては、教員が休業期間中の個別指導を担う時間を削減し、生徒一人ひとりに対する学習支援を強化することができました。



(3) 山田中学校の卒業生による職業紹介マップの作成

キャリア教育をより充実させるために、地域で活躍する卒業生の方に連絡を取り、現在就いている仕事について紹介する掲示物の作成を依頼しました。地域学校協働本部と連携して記事を作成することで、教員の文章作成や編集作業の負担を軽減することができました。

(4) 学校行事（青峰祭文化の部）における交通整備の支援

三島市民文化会館で行われる学校行事について、今年度は、予算の関係で生徒を現地集合解散としました。生徒の安全面を確保するために、PTAに協力を依頼し、文化の部当日の駐車場誘導や交通整理を担当していただきました。教員が教育活動や生徒支援に集中でき、行事全体の安全性も向上しました。

(5) 自動採点システムの導入

定期テストや小テストにおいてAIによる自動採点を導入しました。教員が行っていた採点作業を効率化し、正確かつ迅速な処理を実現しました。空いた時間を授業準備や個別指導に充てることができ、生徒への教育的支援が充実しました。

(6) 時間割作成のデータ化・効率化

時間割変更の際、教科が重複しないよう、担当教員の入力欄にクラスを記入すると、その教科が自動的に時間割表に反映されるデータを作成しました。職員からは「時間割の移動が容易になった」との声があり、教員間の調整にかかる時間が削減され、教科の重複防止が容易なため、職員の負担が軽減されました。

3 取組の課題

今年度の取組から考えられる課題として、次の3つです。

- ①外部人材や保護者への依頼が一部に集中しないよう、負担の分散を図ること。
- ②自動採点システムの導入範囲を拡大するには、機材・ソフトの整備や教員研修の実施。
- ③時間割作成データの操作や更新に習熟度の差があり、一部の職員に負担が偏らないようにすること。

以上のように、成果と課題を学校運営協議会・PTAをはじめとする地域との共有、連携を強化しながら、ICTの活用を推進することで、教員が教育活動に専念できる環境を整えていきたいです。今後も、業務改善の実践事例を積極的に共有し、持続可能な教育活動の実現につなげていきます。

様式 1

令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」による学校の働き方改革取組状況報告書 裾野市立深良中学校

1 取組内容〔地域・家庭、関係機関等との連携・協働〕

本校の総合的な学習の時間において、防災をテーマに、1年「地域・社会とつながろう」3年「住み続けられる街づくり」を探究した。その際、地域や外部機関等と連携し、体験や対話など様々な防災学習に取り組むことを通して、生徒の防災意識の向上を図り、地域の一員として地域防災に参画しようという意識を高める取組を行った。

2 取組の成果

(1) スクールコーディネーターの活用

地域住民と連携し、フィールドワークや対話による学習、各区長による防災パネルディスカッションの実施をした。深良地区に詳しい区長や防災委員の方々にスクールコーディネーターが声掛けをして招集し、充実した学習を行うことができた。



(2) 企業等の関係機関との連携

トヨタ自動車未来創生センター、県東部危機管理局と連携し、様々な体験活動を実施した。市役所から貸し出していた段ボールハウスを実際に自分たちの力で設置する体験をしたり、市役所で印刷していただいた深良地区の大地図を使ってハザードマップを作ったり、地域の方とHUG（避難所運営ゲーム）の体験を行ったりと、企業や区市職員の協力により教職員の知識だけではできない講義をしていただいた。



(3) 学習発表会・成果発表掲示

多くの方にご協力いただいた防災学習について、関係者や保護者を招いて発表会を行った。顔見知りになった方が実際に聞いて講評をくださり、生徒も学習したことを評価していただき充実感を持つことができた。また、地域のお祭りにて、防災学習発表の掲示を行い、地域の方々に学習の成果を還元した。



体験や対話を取り入れた防災学習により、生徒の防災に対する関心の高まりと、防災意識の向上につながった。地域や企業の関係者と連携して防災学習に取り組むことを通して、生徒が地域のことをより深く知ることにつながるとともに、地域の一員としての自覚が芽生えた。ご協力いただいた縁が、地域とのつながりをより濃いものにしたと考える。

また、外部や地域との連携によって、教職員の授業準備の負担を軽減し、防災学習の質の向上が見られた。

3 取組の課題

地域や関係機関の協力により充実した学習の成果を継続するために、スクールコーディネーターとの連携を強化したり、依頼方法のマニュアル化をしたりと、教職員の負担軽減を図る手立てを構築していきたい。

様式 1

令和 7 年度「業務改善『夢』コーディネーター」取組状況報告書

松崎町立松崎中学校

本校は平成 20 年度より隣町の西伊豆中学校とともに松崎高校との連携型中高一貫教育を推進している。学校の夢実現加配が配置されており、これにより生まれた時間と人的資源を活用し、西伊豆地区連携型中高一貫教育の推進をはじめ、さまざまな業務改善を推進している。本報告に挙げた取組は、その一例である。

1 取組内容

(1) 教育効果をより高める教育課程編成等の工夫

① 地域に根差した職業従事者を講師として招聘

- ・ジオガイドの解説を聞きながら地域の地層などを見学するジオ学習の実施。
(1 年生)
- ・林業従事者による地域の林業と山の環境についての講話、木の加工体験の実施。
(3 年生)

② 職場体験学習実施方法の工夫

- ・地域の特色ある職業体験の実施。例年の活動場所に限定することなく、生徒自身が体験先を探し、交渉、実施。(2 年生)

③ 学校行事の見直し

- ・例年 10 月に行っていた校内音楽会の機能を、2 回に分けて実施する。音楽交流会を 5 月に、校内音楽会を 11 月に実施。2 回実施することで、5 月の状態からどのように成長したか確認することを重要な視点とした。

④ 生涯スポーツの視点での部活動運営の見直し

- ・複数の部活動に所属することを奨励。
- ・自分の実情に合わせた部活動参加。※休む理由を問わない。

(2) 業務の効率化へ向けた意識啓発（毎年改善の継続を図っている）

① Googleworkspace の CHAT 機能の活用

- ・連絡事項は、必ず CHAT に挙げる。
- ・書類について、何がどこにあるか探す時間が減る。
- ・変更があった場合、何が最新のものかはっきりとしている。
※CHAT の中のものが最新という共通理解が前提。

② ICT 支援員との連携

- ・ICT 支援員が来校した際にスムーズに対応できるよう、担当が質問事項や要望を取りまとめ、整理して伝える。
- ・ICT 支援員に率先して質問できる雰囲気づくり。

2 取組の成果

取組に対する具体的な記述については、それぞれの番号に対応。

(1) 1－(1)の成果

- ① 本物に触れる体験学習は大きな実感を伴い、生徒により刺激となった。木の加工体験は、教師だけでは行うことが難しい本格的な体験活動であり、有意義だった。
- ② 自ら体験先を探したことが、意欲の向上につながった。交渉する際の言葉や礼儀作法について調べる生徒がいた。
- ③ 歌ってきた生徒・参観者の両者が5月と11月を比べることで、成長を実感できた。その実感が新たなモチベーションとなった。
- ④ 率先して運動に親しむ生徒が増えた。特に、陸上に参加する生徒、地域の駅伝大会に参加する生徒が増加傾向にある。

(2) 1－(2)の成果

- ① CHATに必ず挙げられていることで、連絡の再確認の時間が減った。また、挙げられていないときには、教員同士で声かけがなされるようになり、活用が進んだ。
- ② ICT支援員の支援内容が明確になった。支援を重ねる中で交流が深まり、教師も支援員に質問しやすくなった。「質問すれば、より効率的になる」という実感が生まれたことが、改善を更に推し進めていると感じる。

3 取組の課題

本校は自治力や自由裁量が高い学校である。音楽会に向けての練習は年間を通して行っており、量、頻度なども生徒たちに任せられている。反面、自由度が高いため「どこまでが教師の出か」を見極める上で常に課題がつかまとう。今後も本校の文化が続く限り研鑽を続ける必要がある。

部活動の複数所属については、今後も推し進めていきたい。今年度始めた制度であるが、現在学校内部活動における兼部者はいない。運動に率先して取り組む生徒、生涯スポーツの促進の面からも、学校内で兼部する生徒が生まれてくるための文化づくり、仕組みづくりを構築していきたい。

ICT支援員に限らず、学校にはSC、SSWなど学校を支える多くの職員が存在する。このような職員が力を発揮できるようにするために、教職員からの働きかけ方が大切になってくると思う。

学校にあるさまざまな支援体制は、十分に活用されていない可能性もある。先入観を捨てて、学校の諸活動全般を見直すことが今後の業務改善のヒントになるかもしれない。今年度の取組から見えた成果と課題を、来年度の児童生徒教師の実態に合わせてカスタマイズし、改善を続けたい。

様式 1

令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

富士市立吉原北中学校

1 取組内容〔(1)高度な知識・技能を有する外部人材の活用〕

令和5年度から6年度まで富士市から特別支援の視点をもった授業づくりの指定研究を行ってきた。日常業務に研究が加わり、教職員の働き方改革が喫緊の課題となり、教務主任の立場から、改革を行った。

具体的な取組として、木曜日を教職員の事務処理の日と設定した。事務処理の日には、会議や行事等は設定しないよう配慮した。研究終了後の本年度も木曜日を事務処理の日として位置付けるとともに、教職員の見識を広げ資質・能力の向上を図り、日本語コーディネーターやスクールカウンセラー、市の防災担当など外部から講師を派遣し、講話等による研修（名称：ミニ研修）を校内研修とは別に位置付けた。事務処理の日ということもあり、時間は30分程度で行った。下の表は、今年度のミニ研修の計画及び取組内容である。

表：本年度のミニ研修の計画及び取組

回	日付	講師および所属	研修内容
1	5 / 1	静東教育事務所 日本語コーディネーター 杉本さん	日本語が十分でない外国籍生徒の気持ちを理解し、支援について考える。
2	6 / 26	本校職員 牧田教諭	タイの在外教育施設について知る。
3	9 / 4	市防災危機管理課より 2名来校	能登地震の派遣の話から教職員として取り組むべきことを防災計画書に沿って考える。
4	12 / 18	市総務部企画課より 2名来校	市の第6次総合計画内の教育に関する講話を通して、市がめざす方向性について理解する。
5	2 / 26	本校スクールカウンセラー 飯田さん	教育相談の充実、生徒が話しやすくなる環境について学ぶ。

2 取組の成果

表2、表3からもわかるように、ミニ研修を行ったことで、新たな気づきや生徒への支援方法等について得た教職員が多数いた。

特に防災については、ミニ研修を行ったことで、表4の学校評価アンケートから、前年度よりも3.6ポイント増えた94.4ポイントと高い結果を出すことができた。この成果として、避難訓練前に生徒へより自分事となる声掛けや事前指導を行ったことで、緊張感のある避難訓練を行うことができた。

表 2. 5月1日ミニ研修 教職員感想

「サバイバルジャパニーズ」、「たのしいがっこう」は目から鱗でした。
言語が違ってても伝わるもの（写真など）を活用したいと感じました。状態変化の例では、我々大人はなんとなく似た言葉から察することができた部分がありましたが、生徒はそうはいきません。日本語を覚えなければいけないからと日本語で押し切ってしまった場面がありましたが、生徒が日本語を覚えるためにこそ、視覚化等の支援が必要だと思います。
学習内容が視覚化されたら、霧が晴れたように分かって、笑顔になりました。学年の外国籍の生徒の思いに寄り添うとともに、日本語も添えて、日常生活での日本語会話ができるようになる支援をしていきたいです。東京都教育委員会のデータも有難い情報でした。

表 3. 9月4日ミニ研修 教職員感想

生徒に対して、避難訓練の際、「いつでも災害は起こりうる」と毎回伝えます。しかし、自分はほとんどのケースを考えることができていませんでした。休日部活中、外部会場での大会参加中、通勤途中など、自分が想像した様々なパターンを生徒と共有したいです。
災害が起きた際に適切な避難ができるように、ハザードマップや土砂災害警戒区域などの確認を生徒に呼びかけたい。
吉原北地区は土砂災害警戒地域が多いため、登下校時の注意喚起をしたいと思いました。日頃からいつ、どこで何が起きても生徒を守るための対応ができる知恵や決断力をつけていかなければと、あらためて感じました。

表 4. 学校評価アンケート 生徒回答結果

質問内容	R 7 後期 (R 6 比較)	R 6 後期
緊急時に、自分の命を守るために適切な判断と行動を取ることができる。	94.4% (+3.6)	90.8%

3 取組の課題

今後行うミニ研修もあるが、外部人材を活用したミニ研修を通して、教職員の見識を広げ、資質・能力の向上に一助となった。

事前に教育課程の中に位置付けてあったが、やはり事務処理の日ということで、教職員の中には後ろ向きの意見もあった。しかし、ミニ研修後はやってよかったという意見へ変わった。ミニ研修の在り方について精査する必要がある。来年度は、本校学校経営方針「居心地・学び心地のよい学校づくり」を具現化するためのミニ校内研修を教育課程に位置付けていく必要がある。

様式 1

令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

島田市立川根小学校

1 取組内容〔地域・家庭、関係機関等との連携・協働〕

- (1) スポーツフェスティバル（運動会）準備における、PTA役員の協力
- (2) あっちこっちハイキング（地域の魅力再発見遠足）における、地域コーディネーターの活用
- (3) ラブフェスティバル（学習発表会）に向けての、地域サポーターの活用と協力

2 取組の成果

- (1) 川根小は児童や教職員の人数が少なく、バスを使って登下校をしている子どもたちも多いため、スポーツフェスティバルの準備のための人数の確保が難しい。本年度のスポーツフェスティバルは、雨天のため前日準備ができなかったが、PTA役員が朝早くから万国旗やテント建て等の準備をしてくださった。そのため、準備の時間が短縮され、担任は子どもたちの安全確保に努めることができた。
- (2) 「あっちこっちハイキング」は、人事異動で勤務地が変わる教職員にとって、その地区の魅力を発見したり新しく開発したりすることが難しい。川根地区の地域学校協働活動推進委員が、目的に合った場所や活動の提案だけでなく、地域に詳しい住民の方の紹介もしてくださる。本年度は、推進委員が地域の方々を探してくださり、地域の方々子どもたちの希望にあった場所や活動内容を自らプレゼンしてくださった。
- (3) ラブフェスティバルにおいて、5、6年生は、川根の魅力を発信するというテーマで発表を行うにあたり、子どもたちの力だけでは発信する内容や方法に限界があるため、川根地区の発展を願い活動をしている地域サポーターの「NPO法人シマシマ」の方に協力をお願いした。地域サポーターの方が國學院大学の学生サークルとも繋がりがあり、普段の授業にも大学生がサポーターとして入ってくださった。発表会当日も、子どもたちの発表を手伝ってくださった。子どもたちは多くのアドバイスをもらいながら、発表内容の精選や発表の仕方を学ぶことができ、川根の魅力について自信を持って発表することができた。

3 取組の課題

全体を通して、新たな人材の確保が難しい。学校に関わってくださる方々の高齢化もあり、これからも持続可能な取組みとしていくためには、新たな人材を見つけていく必要がある。また、地域に精通している方が多いほど、学校としても得られる情報は多くなる。地域コーディネーターの方やPTA役員、地域の方とも話をしながら、新たなサポーターを増やしていきたい。

様式 1

令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

磐田市立豊田南小学校

1 取組内容〔(5) 地域・家庭、関係機関等との連携・協働〕

教職員の業務負担軽減と教育活動の充実を目的として、学校ボランティア募集サイトを新たに作成し、年間を通して常時ボランティアを募集できる仕組みを整えた。

本サイトを活用することで、以下のような活動について、必要な時期に応じて円滑にボランティア募集を行うことが可能となった。

- ・校内環境整備（草取り、トイレ清掃等）
- ・水泳学習における安全補助
- ・家庭科におけるミシン操作の支援
- ・生活科・社会科の町たんけんにおける児童の付き添い

特に、これまで教員の手が行き届きにくかった校内環境整備についても、ボランティアとして継続的に参加してくださる方が増加し、学校全体で子供を支える体制づくりを進めることができた。



【ポプラっ子サポーター募集サイト】

2 取組の成果

校内環境整備や授業補助に関わる作業をボランティアに担っていただくことで、教員が授業準備や児童理解に充てる時間を確保することができた。

募集サイトの整備により、必要な活動内容や時期を明確に示すことができ、これまでの個別連絡や紙媒体による募集と比べて、募集・調整がスムーズに行えるようになった。

3 取組の課題

時間帯や活動内容によって参加できる人が限られるため、より多くの人が参加しやすい募集方法や活動設定の検討が求められる。

- ・ ボランティア募集サイトを安定的に運用していくため、更新や情報管理の体制を整え、ICT アシスタントと協力しより効率化したシステムへの改善が求められる。

様式 1

令和7年度「業務改善『夢』コーディネーター」による 学校の働き方改革取組状況報告書

掛川市立大須賀中学校

1 取組内容〔地域・家庭・関係機関等との連携・協働〕

- (1) 高度な知識・技能を有する外部人材の活用（未来授業）
総合的な学習の時間を活用し、生徒一人ひとりが将来の職業について考えるため、昨年度から「未来授業」に約30名の講師派遣を依頼し、職業講話を行っている。
- (2) 高度な知識・技能を有する外部人材の活用（剣道授業）
毎年11月に50時間程度の時間において、1・2年生の保健体育科『剣道』の指導を地域の方をお願いしている。有段者の美しい技術をお手本にしながら、実技指導をしていただいている。
- (3) 高度な知識・技能を有する外部人材の活用（三社囃子保存会）
毎年9月に三社囃子保存会の方を10名ほどお招きし、横須賀地区にある三熊野神社の歴史や祭礼について、2年生を対象に講義と実演で2時間の御指導をいただいている。
- (4) 学校行事等におけるPTA等との連携・協力
役員数を削減し、活動も精選して持続可能なPTA活動となるよう取り組んでいる。
従来のおいさつ運動や奉仕活動を行うとともに、PTA役員の方には、体育大会や合唱コンクール、PTA参観懇談会の際に駐車場整理を依頼し、快く協力をしてもらっている。

2 取組の成果

- (1) 事前にアンケートを実施し、生徒たちが興味関心のある2講座を選択できている。興味や関心のある職業のプロの話を知ったり、目の前で実演を見たりすることができていることから、将来の職業についてより具体的に考えるきっかけとなっている。
- (2) 講師の先生が、長年にわたり地元の道場で剣道指導に携わっている方であり、剣道の知識と技能はもちろん、人間的にも非常に温厚な方である。
技術を高めて剣道の楽しさを味わうと同時に、武道において大切な礼を重んじる指導も段階を追って丁寧に行ってもらっていることから、教育的効果が高い。
- (3) 本校の学区となる横須賀地区では、4月に三熊野神社大祭が行われ、9

月には全国的にもめずらしい中学生が企画や運営、会計等のすべてを取り仕切って行う『ちいねり』が行われる。また、10月には同じく学区となる大淵地区の祭典が行われ、非常に祭りが地域に根付いている。

そのため、生徒の関心も高く、生まれ故郷を理解し、愛する心情を育むとともに、この地区特有の伝統の継承にも役立っている。

- (4) 生徒数の減少に伴い、家庭数も減少が見込まれ、現在の小学生の人数から、現在の全学年3学級が4年後には全学年2学級6学級になることがわかっている。

そのため、役員数を家庭数に対して5%にすることを定めて削減し、会合の回数を減らすなど、活動も精選して持続可能なPTA活動となるよう取り組んでいる。

3 取組の課題

- (1) 生徒にとっては将来の職業について考えるきっかけとなっているが、保護者のアンケート数値「わが子は、職業や進路等、自分の生き方や将来のことを考えている。」は66.1%にとどまっている。学校での取組を各家庭で話題にしてもらうことで、さらに効果が高まると考えていることから、そのための手立てを考え、取り組んでいく。
- (2) 特に課題はあがらなかった。来年度も継続して実施していく。
- (3) 特に課題はあがらなかった。来年度も継続して実施していく。
- (4) 特に課題はあがらなかった。来年度も継続して実施していく。